

## A- II -08 インシデントレポートから見た呼吸管理の検討

聖マリア病院 臨床工学室<sup>1)</sup>、救急診療科<sup>2)</sup>、佐賀大学医学部救急医学<sup>3)</sup>  
 中島 正一<sup>1)</sup>、手塚 麻里子<sup>1)</sup>、堤 善充<sup>1)</sup>、佐藤 茂<sup>1)</sup>、  
 為廣 一仁<sup>2)</sup>、島 弘志<sup>2)</sup>、瀧 健治<sup>3)</sup>

### 【はじめに】

現在の人工呼吸器は、多種多様で高機能を有する機器が増加している。また、用途が同じであっても各機種によりモードの呼称が違い、ミスを引き起こす原因となっており、そのミスは社会問題としても取り扱われている。今回私達は、本院における人工呼吸器に関して発生したインシデントをまとめ、人工呼吸管理におけるインシデントを減らす方策を検討したので報告する。

### 【対象および方法】

2003年～2005年に本院において人工呼吸器に関するインシデントレポート67件を分析の対象とし、職種別、経験年数別、勤務時間帯別、曜日別にインシデント内容と原因を分析した。

### 【結果】

日本医師会が1260病院・診療所にインシデント発生に対するアンケート調査結果では、5147事例のうち注射に関する輸液機器、点滴チューブのインシデントが39%（1974事例）、次いで呼吸器関係の17%（868事例）となっていた。本院のインシデント結果では、職種別で一番使用機会の多い看護師が44件（67%）と極端に多かった。経験年数別では、1年以上5年未満が25件（38%）、次いで1年未満18件（27%）の順に多かった。インシデント発生勤務時間帯では、日勤帯が最も多く36件（54%）、次いで深夜勤帯17件（25%）の順であった。インシデント発生時間帯では、13時が12件と極端に発生件数が多く、次に9時が8件と多かった。曜日別では土・日・月曜日が少なく、一方、火～金曜日に10～13件と多く、木曜日が13件と最も多かった。インシデント内容としては、不適切な使用が22件（33%）、次

いで誤操作が20件（33%）で半数以上を占めていた。原因分析では、確認不十分が40件（49%）と多く、次いで観察が不十分12件（16%）の順であった。インシデント発生原因の詳細な分析では、見落としていた19件（21%）、気が付かなかった17件（19%）、思い込み14件（15%）で他の分析結果より多かった。

### 【考察】

人工呼吸器は、呼吸を補助する生命維持装置であり、その保守点検や定期点検などは臨床工学技士の業務で重要な位置を占めている。その人工呼吸器の操作に関わる機会の多い看護師からインシデントの件数が最も多い。そのうち、5年未満の経験年数で最も多く発生していることから、未経験看護師の知識不足と経験看護師の慣れから発生したと思われる。発生勤務帯では、設定の変更が多い日勤帯で、特に9時頃と13時頃に多かった。また原因では、機器の仕様に対する不十分な知識、確認と観察の不十分、見落とし、気付かない、思い込みによるもので、多忙や疲れから仕事で注意力散漫になっている可能性が推察される。以上より、インシデントの減少策として看護師を中心に初年時だけでなく、再々の講習会で人工呼吸管理の教育が必要であると共にメンタル面の強化も図ることで、安全に使用できる十分な知識を身につけることと思われる。発生時間帯では、9時と13時頃に多忙や疲れから仕事に注意力が欠けてくることから、勤務体制を検討する必要性も伺われた。

### 【まとめ】

呼吸管理を充実させるためには、継続的な人工呼吸器の教育と勤務体制について検討する必要性が示唆された。